

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム 佑紀苑佐賀		
所在地	佐賀市兵庫町大字若宮宇野中2125番地1		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年3月24日	外部評価確定日	平成22年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の田園風景や室内の自然な明るさの中で、のんびりとした時間を過ごし部屋の中からは、いつも笑い声が聞こえている。地域の皆様よりの暖かい支援を受けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はのどかな田園地帯の集落にあり、地域にも溶け込み、住民との物心両面にわたる交流が行われている。職員は利用者と一緒に地域の敬老会や文化祭、お遍路巡りの接待等の各種行事に参加をしたり、事業所の敬老会や、クリスマス会、コンサート等には地域住民を招いて交流している。また、近隣の方からは、野菜を頂いたり、庭木の剪定や草取り等の協力も得ている。職員の大半が地元在住であることから地域との繋がりが深められている。職員は、利用者個々の残存機能や楽しみ事等を把握し、力の発揮場所を作り、満足感と笑顔のある本人らしい暮らしができるように支援している。利用者の表情や素振りからは、日頃の支援ぶりが窺える。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは、周知徹底していて、日々の申し送りやミーティングの折には、理念の下に業務を遂行しているか、確認し合っている。	地域密着型サービスの役割を踏まえた理念を掲げており、毎朝の申し送り時には唱和をし、また、会議の時などには、内容についても話し合い実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して地域の総会、川清掃等地域の活動には、地域の一員として積極的に参加している。	利用者共々地域に溶け込み、物心両面にわたる交流がもたれている。利用者と一緒に地域の敬老会や文化祭、お遍路巡りの接待等に参加している。事業所の敬老会やクリスマス会、コンサート等には地域の人達を招いている。近所の方からは、野菜を頂いたり、草取り等の協力も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会や幼稚園の運動会等、地域の行事には、地域の一員として参加している。毎年行われている「お遍路巡り」では、地域の一員としてお遍路さんを接待している。事業所の行事等にも地域の子供クラブや老人会等へ案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。入居者・スタッフに関する活動入居者の状態又、地域の皆様の助言・要望等ご意見を頂き、サービスの向上に繋げている。	利用者や家族、地域の代表、行政の職員等の参加の下に、2ヶ月に1回開催されている。会議では、事業や利用者の状態等の報告及び参加者からの助言や要望等について話し合い、運営に反映している。議事録もきちんと作成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、自治会等と連絡を密にしなが、苑周辺の環境整備・災害時の避難場所等、積極的に話し合い協力関係を築いている。町主催の文化祭には、駐車場や入居者の状態に応じて、車椅子の配慮も頂いている。	地域包括支援センターの担当者とは、気軽に情報交換や相談ができる関係にあり、窓口にも出かけ、利用者の紹介等も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行っておらず、運営者及びスタッフ一同正しく理解し、より良い介護を心掛けている。	職員は身体拘束の内容や弊害を理解し、拘束の無い支援に取り組んでいる。昼間、玄関は施錠しておらず、自由に入出入りができる。玄関は居間や事務室からの見通しも良く、利用者の外出の気配は、目配り気配りで見守っている。なお、外出希望時には、抑止することなく同行し見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての報道等には、ミーティングにて問題提起をし、尊厳を持って接するよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修等で学ぶ機会はある。家族より制度利用についての話もあり、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時には管理者が十分な説明を行い、理解納得をして頂いている。疑問点も十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議には、入居者・家族も交代で出席し意見をお聴きしている。自分の気持ちを表出できない方には、日々の関わりの中での気づきを大切にしている。外部の窓口があることについての説明もしている。	面会時や運営推進会議及び年2回開催の家族とスタッフの交流会等で、家族の心情に配慮しながら、何でも言ってもらえるように声をかけている。家族の意見や要望もよく出されていて、それに対して前向きに捉え、スタッフ間で話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや定例会議に聞く機会を設けている。提案によっては、直に反映するようにしている。	代表者や管理者は、日常の業務の中や職員会議で、職員からの意見や提案等を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間は、スタッフ個々の希望をとっている。パート職より常勤職への異動もあり、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修は、ケアカンファレンス時に事例をもとに対処法等周知している。外部研修は、研修情報を張り出しや回覧等で知らせ、参加したスタッフは報告会等で伝達し周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者同士の交流をさらに発展させることで、管理者同士・スタッフ同士の情報交換や、外部研修等での各々の情報交換が出来る機会が増え、サービスの質が一層向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には体験入居により、馴染みやすい環境を事前に作る工夫をしている。また、入居後落ち着かれるまでは、ご家族の方々に来て頂いたり、外出・外泊を自由にして頂きながら、本人が困っている事・不安な事・要望等を聴き、安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に苑内の雰囲気や周辺の環境などよく理解して頂き、不安な事などないかよく聴くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居が望ましいか又は、在宅で他のサービスを受けられの望ましいか本人・家族の思い等を聴き必要としている支援の見極めを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が大事にしてきた価値観・習慣・文化等スタッフは、その思いを感じ人生の先輩より学ぶ姿勢を大事にし考えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の折には、スタッフも交え楽しく語らえるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事には、一人でも多くの家族と一緒に過ごして頂けるよう案内をしている。親類の皆様と再会される関係が途切れないよう外出・外泊の支援にも努めている。	利用者の馴染みの人や場所等を把握し、利用者と一緒に馴染みの公園や学校、デパート、自宅等を訪れている。また、家族の協力も得ながら、墓参りや仏事等への参加も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	たまには、入居者同士での意見の違い等発生するが生活を共にすることで、助け合い・支え合う関係が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者と退去者との繋がりを大切にしている。訪問したり、退去者が家族と共に遊びに来られたりして付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントは、誰が見ても入居者の情報がわかるよう、入居者・家族の意向を表記している。日々の暮らしからも入居者の好きな事等を把握し、サービスに反映できるよう努めている。	本人の意向や思いは、日常の会話や表情等から把握している。意思の疎通が困難な場合には、家族や関係者から話を聞き、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より入居時や面会の折に今までの暮らし方等を聴いている。本人との関わりの中からも生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活が大きく変わらない様個々に配慮している。一人一人と向き合いながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より、家での役割・暮らしぶり等の情報を得ながら、日々の生活の中からも本人のニーズを引き出し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の希望や意向等を確認すると共に関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。新しい利用者については、1ヶ月ごとに確認を行い、また、他の利用者についても定期的に評価し、見直しに活用している。状態に変化が生じた時には、速やかに見直し、現状に添った計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫が必要な時には、直ちにミニカンファレンスを行い日々の申し送りや、ノートにて情報を共有し、一貫したケアを行うよう努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のことが気がかりな人には、家族に直接電話をかけている。本人の希望により面会への支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力にて、災害時の連絡網の支援をして頂いている。町の文化祭にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は入居後も継続され、入居者が安心して受診できるよう支援している。また、緊急時は入居者の状況を把握している搬送先の病院を、個別に定めている。	以前からのかかりつけ医の受診が継続されている。通院は基本的に家族の付き添いとしているが、状況によっては、職員が介助し、適切な診療を受けられるように支援している。事業所と医療機関との連携も良好である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日常の健康管理を行い、健康面で心配な事があれば看護師に相談し、入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、お見舞いをしながら家族と病院関係者との情報交換や相談に努めている。できるだけ早期に退院できるように病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合の対応に係る指針・ターミナルケアの指針を、入居者・家族に説明し同意をとっている。早い段階から、かかりつけ医・家族と共に話し合いを行い、看護・介護の両面からの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の支援に係る指針を作成し、利用開始時に説明を行い、意思の確認と同意を得ている。これまでに実績はないが、今後に備えて研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急マニュアル等で応急手当を行い、夜間は、緊急連絡網に沿って速やかに連絡できるようスタッフ全員に周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜の災害を想定した避難訓練をスタッフ・入居者と共に行っている。手引き歩行や車椅子使用の入居者の居室が分かる見取り図を配布している。また、地域の自治会と連携し、災害時の連絡網を作成し対策を行っている。	年に2回、昼夜の火災を想定し、地域の自治会と連携を図り通報・消火・避難等の訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者・一人一人の人格を尊重し個々に合った言葉掛けや対応をし、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。個人情報の取扱いについては、全スタッフに誓約書を交わし対応している。	職員は、利用者一人ひとりの人格とプライバシーに配慮した言葉かけや介助を行っている。利用者の個人情報については、守秘義務を理解し、取扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるよう言葉をかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を配慮しながら一人一人のペースを大切に、思い思いの希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際、入居者と一緒に服を選んだり、2ヶ月に1回の散髪(パーマ)等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・買物が好きな入居者には、切り込み・盛り付け・食材選びを一緒に行っている。食事の際には、クラシック等の音楽を流し、スタッフは、入居者と一緒にテーブルについて食事をしている。季節に合った食事の提供も行っている。	利用者の力量に応じ、食材の下ごしらえや味付け、盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。食事の時には、職員も一緒に同じ物を食べながら、楽しい雰囲気作りに配慮している。また、利用者と一緒に和やかに、おやつを作る様子も見受けられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフに栄養士がいるので、バランスの取れた食事の提供が出来る。一日の食事摂取量や水分摂取量等が把握出来る様一人一人のチェック表を作成している。また、食事形態も一口大の大きさやきざみ食等一人一人に合った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の入歯洗浄や、本人に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄を記録し、個々の排泄のパターンを把握する事で個々に合った排泄の声掛け、誘導等を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、多くの利用者に対して、昼間は布製下着、夜間は紙パンツ(リハビリパンツ)使用での排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事の提供・水分量にも注意を払っている。入居者の状態に応じた軽い体操を取り入れ天気の良い日には、近隣への散歩も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望や体調にも配慮しながら入浴を楽しめるように支援している。足浴・清拭等も行っている。	基本的には、週3回の入浴であるが、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴を拒否される場合には、無理強いをせずタイミングを見計らったり、清拭等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から一人一人の時間を持ってもらい、居室で休息されたり、リビングで新聞を読まれたり、等、ゆっくりとした気持ちで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに処方された場合、必ず申し送りをし、使用法は、処方箋を見て把握しながら、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除・台所手伝い・洗濯干し・たたみ・楽しみにしている塗り絵や買物へ出かけたり等、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調・天気・希望に応じて散歩に出かけている。季節ごとの風景を楽しんで頂けるよう、花見・清流見学等行っている。家族の協力を得て、本人の希望である墓参りや思い出のある場所への外出支援を行っている。	気候の良い時期には、日常的に散歩をしたり、時には花見等のドライブもしている。また、年間を通して、利用者と一緒に、食材の買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望でお金を所持している方もおられ、一人一人の希望や力に応じて苑で預ったり、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自ら家族へ電話をしたり、自ら電話が出来ない方は支援をしている。家族からの電話はゆっくりと話せるよう支援し、手紙を出される方は、代筆の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室外は、季節の花々が咲き、室内も自然な明るさの中で暖かい雰囲気作りをしている。入居者とスタッフで一緒に作った雛飾りや行事毎の写真を飾り、季節感・生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間兼食堂は、ガラス窓が多く、採光や屋外の見晴らしも良く、居心地の良い環境である。季節に応じて、ソファやテーブル等を利用者と一緒に移動させるなどして、日当たりの調節も行っている。玄関や居間には、季節の花や雛人形を飾り、季節感も採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってテレビを観たり雑誌・新聞等を読まれたり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用されていたソファや椅子・家具類を配置し、家族と一緒に写真を飾ったりして居心地良く過ごせるよう支援している。	ベッドの位置を本人や家族と話し合っ決めて、書道をされる利用者には、以前と同様の座位で書けるように、テーブルや畳を準備してもらおう等、本人や家族と一緒に居心地の良い居室作りに取り組んでいる。また、位牌や、家族との写真、使い慣れた筆筒等も見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が、自立できるよう必要以上に手を貸さないように支援している。障害物を取り除きながら安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)		取り組みの成果	
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します		↓該当するものに○印をつけてください	
項 目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない